

浄土宗コドモタイムズ

第27号

発行
浄土宗児童教化連盟

発行人
平野 仁司
〒252-0027
座間市座間1-3300
宗仲寺内
TEL・FAX
046-257-0397

「うちらお寺探検隊」がいろいろなお寺をめぐって、その秘密を探りま〜す。

お寺不思議 ハッケン!! ④

浄福寺 編



私たちは今回、京都の上京区にある「浄福寺」というお寺に行ってきました。
西陣の町屋が連なっている浄福寺通沿いにこのお寺はあり、赤門がとても印象的です。全体に朱色で塗られていて、近所の人たちからは「赤門寺」と呼ばれ親しまれています。
このお寺は建てられた年ははっきりしていませんが、最初は天台宗のお寺として建てられ、後に浄土宗を兼ねるようになった

たので、最初は「常福寺」だった名前も「浄福寺」に変えたそうです。浄福寺の歴史はとも古く遣唐使に反対し九州の大宰府に流された菅原道真のゆかりの人が住職を務められ、お寺の中には、菅原家の家紋の梅の花があります。
奈良から京都へ都を移したときも、御所の鬼門よけのために建てられたお寺です。

↓次のページへつづく



ふたりの道④ 義経と法然さま (牛若丸と勢至丸)
最終回 うらまない心を
法然さまは、どこへでも出かけては、南無阿彌陀仏と念仏を称えることで平等に救われる道

を説いてまわった。教えは広がり、人々の心をとらえていった。
源氏と平家の争いはますます激しくなつた。治承四(一一八〇)年のこと、源氏に味方する奈良の東大寺を、平清盛の息子重衡がひきいる平家軍が東大寺を取り囲んだ。脅かすつもりで近くに火を付けた。風が吹き、火は大仏殿に燃え移った。火は激しく、人々を焼き殺し、金銅製の大仏さまも溶かしてしまった。翌年、清盛が突然熱病にかかり、亡くなった。人々は、大仏を焼いた罪だと噂した。平家が不利になってきた。神戸の一ノ谷の戦いは激しかった。源義経の活躍はめざましく、源氏の大勝ちだった。
その戦いで、平重衡が捕らえられ、京都へ連れ戻された。まちがいなく死刑だ。地獄へ落ちる!、重衡は大仏を燃やしてしまったことを悔やんでいた。
「法然さまのお話を聞きたい!」と願ひ出た。そのとき許可したのが京都を守る義経だ。法然さまを、ほんとうの僧として知っていたようだ。
「お念仏をすれば、悪人のままでも仏が救う。必ず往生できる!」
と、法然さまはていねいに説明した。絶望の淵にあった重衡の心は、はれた。

「ああ、これで浄土へ行ける!」
平重衡の心を取ったのは、偶然にも義経と法然さまだったのだ。
その後まもなく、平家は滅んだ。さて、京都では源氏の若大将義経の人氣はあがるばかり。しかし、兄の源頼朝はおもしろくない。
「いづれ、兄の私にとってかわろうとするに違いない!」
頼朝は、弟の義経を殺すことにした。義経は、かつて世話になった東北の平泉に逃げた。頼朝の追及は厳しく、「義経を殺せ、でないと滅ぼすぞ」と藤原氏を脅かす。義経は昨日まで味方だった藤原氏に囲まれてしまった。逃げられない。義経は切腹を決心した。兄をうらんだ。それでも義経は、浄土に生まれることを願った。悲しい死だ。義経三十一歳。
しかしその年、藤原氏は頼朝に滅ぼされてしまった。そして頼朝は、十年後、馬から落ちて死亡。今度は頼朝の子どもたちが殺し合いが始まってしまった。
うらみはくり返す。法然さまの父が亡くなる時の言葉「仇うちをしても、いずれきつと復讐」を思い出そう。
法然さまは、その後も平等の教えを力強く説き続け、八十歳のとき、往生された。そのお顔は、ほほえんでいたという。今から八百年前のことだ。
(おわり)



「うちらお寺探検隊」がいろいろなお寺をめぐって、その秘密を探りま〜す。

↓ つづき

お寺

不思議

ハッケン!!

浄福寺 編



安土・桃山時代には秀吉の朝鮮出兵に反対した薩摩(鹿児島県)藩、島津歳久が処刑され、その首が一条橋にさらされていました。また、京都にいた島津家の親戚の人が、首を盗み浄福寺に持ち帰り供養してあげたそうです。そのため、薩摩藩にとって浄福寺は特別な存在になりました。その縁があつてか幕末には薩摩藩の屋敷に納まらなかった藩士を宿泊させるために本堂や客間を貸し、藩士たちが暴れてできた刀傷が今でも入り口の柱に残っています。

また、今から約二八〇年前におきた、京都で歴史上最大の火事といわれている「天明の大火」がお寺の赤門の前でちょうど止まったそうです。その理由は天狗が赤門の上で巨大な団扇をあおぎ、火を消したといわれています。このような伝説から、浄福寺には天狗が祀られています。浄福寺には他のお寺にはない部屋があります。それが「方丈」という部屋です。この部屋は昔、主に貴族の人々が使い「御内仏(おないぶつ)」と呼ばれる本堂にある仏像とはまた違う仏像があります。また天井には竜が描かれていて部屋の中で手を叩くと音が反響し、まるで竜が鳴いているように聞こえてくることから「鳴き竜」と呼ばれています。

また、今から約二八〇年前におきた、京都で歴史上最大の火事といわれている「天明の大火」がお寺の赤門の前でちょうど止まったそうです。浄福寺は日本最古の違法建築といわれ、外から見れば二つの建物だけれども中に入ると一つの建物になっているなど、見た目ではわかりにくいデザインにしたそうです。パソコンもな



い当時の人々にそんな技術があることにびっくりしました。そのため全国から建築関係の人がよく見学に来られるそうです。今では、しっかりと規定を守っているので安心してください。さて、今まで浄福寺の歴史を説明してきましたが、ここで浄福寺の名物を二つ紹介したいと思います。一つ目は塩辛い納豆です。当時の四大納豆の一つとして数えられており、時代劇で有名な水戸黄門も食べて「おいしい」と言ったそうです。二つ目は「浄土すごろく」です。極楽にたどり着いたら勝ち、地獄に落ちたら負けで、全員が極楽か地獄どちらかにたどり着くまで続く、現在で言う人生ゲームのような遊びです。ちなみに私たちも挑戦してみました。三人中二人が地獄に落ちてしま

いました。でも、大丈夫。地獄に落ちてしまった人には、極楽に行けるヒントが書いてある秘密の箱を覗くことができます。皆さんもぜひ、浄福寺に来たら挑戦してみてください。本堂など多くのものが京都市指定有形文化財に指定されており、普通の観光名所としてのお寺とは少し雰囲気違う、立派なお寺でした。最後に浄福寺のご住職からみんなに一言「家事の手伝いをするんだよ。」





質問

この間お寺に行きました。本堂の飾りの中に竜を見つけました。どうして竜がいるのですか。

(京都 小四 女子)



答え

お釈迦さまがお生まれになった時、竜は産湯を使わせるために天から水を注いだといわれています。またお釈迦さまがさとりを開かれた時には、その上空で雨風から守ったそうです。

また竜は仏さまの教えを守る守護神のような存在です。ですから本堂の天井から吊つてある人天蓋という傘の飾りの周囲には、「仏さまの教えを守っていますよ」と竜が配されているのです。

お寺によっては、お堂の天井に竜の絵が描かれているところもあります。これも同じ意味で、仏教を守護している様子を表しています。また竜は水中または海中に住んでいて、雨を降らすといわれます。こ



ういうことから、竜がお堂の中に入るのは、お寺を火事から守る意味もあるようです。

質問

毎月、和尚さんが家にお経を読みに来てくれます。どのような思いで聞いたらいいのでしょうか。

(神奈川 小五 女子)



答え

和尚さんのお経をどのような思いで聞くのかということですが、和尚さんのお唱えするお経の中に、「開経偈」(かいきやうげ)という偈文(げもん)がそのヒントになります。

無上甚深微妙法 百千万劫難遭遇
我今見聞得受持 願解如来真实義

これは、「仏様の教えは、この上なく奥が深く、言葉に表わしきれないほど尊いものである。この教えに出会う事は奇跡に近い。今、自分が見聞きできることは、本当に素晴らしいことで、仏様の教えの正しい意味を体と心でわかりたい。」という意味です。

お経は、仏様がみなさんに、お話をしてくれているのです。と言っても、一つひとつのお話の意味をわかるのは大人でもむずかしい事です。しかし、わからなくても、仏様のお話を聞くことは、良い行いをする事と同じくらい尊いことです。なによりもいい事は、皆さん自身も一緒にお経を読むことです。和尚さんと一緒にお経を読む。それがなによりです。自分で読むお経を自分の耳で聞く。とても尊い事です。ぜひお経を読みましょう。



寺田 剛

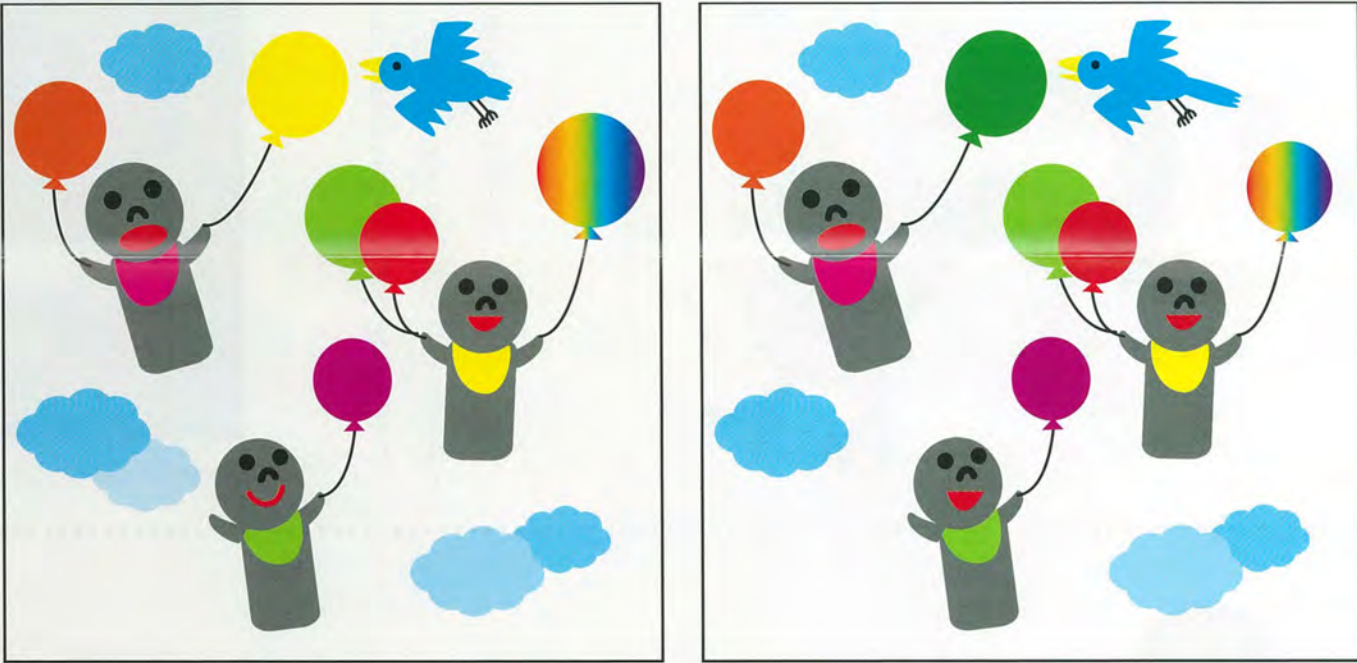
「もういいかげん、行儀よくしなさい!!」
またまた、またお母さんに大目玉!!
「お母さんって、なんであんなに怒りっぽいのかな!」
それは違うよ!! みんなが行儀よくしないからだよ。
この行儀は、仏教用語なんだよ。
お坊さんが修行をしている時の立ち振る舞いや法要での作法の事なんだよ。
確かに、お坊さんが、法要をお勤めされている時は、背筋がピン、歩かれる時は、スー。
かっこいいね。見ても気持ちがいいもんね。
その姿には、仏様を尊敬し敬う気持ちがあふれているね。
「だけど、僕たちお坊さんじゃないから出来ないよ。」
いや、いやお坊さんだけじゃないよ。
外国のことにわかに、「行儀作法が人をつくる」というのがあるんだよ。
行儀良くすることは、相手を敬う気持ちがあふれているんだよ。だから、行儀良くすれば、みんなと仲良くなれるんだ。
それは、日本だけじゃなく、世界共通!!
だから、少しはお母さんの言う事を聞いて、行儀良くしよう!!

行儀 (ぎょうぎ)

これも仏教の言葉だよ!

ちがいがし

絵：田畑会海



お知らせ

◇みなさんからの記事をお待ちしています。学校でのこと、家の中のこと、家族のこと、友だちのことなどを書いて送ってください。
◇またみなさんからの作品もお待ちしております。絵や作文、お習字など何でもけっこうです。
◇送り先は
〒252-0027 座間市座間一三三〇〇
宗仲寺内 浄土宗児童教化連盟事務局
感想もいっしょに書いてください。
TEL/FAX 046-257-0397

前回の答え

1. 木の枝
2. 左下のお地蔵さんの口
3. 林檎の色
4. 右下青虫のおしり
5. 左上のお地蔵さんの手

左の絵と右の絵のちがうところを5つ見つけてください。
ハガキに答えを書いて左記まで送ってください。正解者の中から抽選で30名に記念品をお送りします。記事の感想や意見もいっしょに書いてください。しめきりは6月1日です。
送り先
〒252-0027
座間市座間一三三〇〇
宗仲寺内
浄土宗児童教化連盟事務局
TEL/FAX 046-257-0397

ふくふく編集室



東日本大震災から一年がたちました。
津波によって多くの人が犠牲になりました。
岩手県釜石市の釜石保育園では、震災が起こる前、毎月、津波を含めた避難訓練をしていたそうです。地震が起こり、園長先生は「津波が三メートルの警報が、緊張のせいか十メートルと聞こえた」そうで、あわてて高台に避難を始めたといいます。釜石保育園は高台に近いせいもあり、地震発生後約二十分高台の途中まで避難していたそうです。
避難にあたっては早い判断をしているのは、どの保育園でも同じだったようです。
園長先生は、
「私たちは、子どもの命を預かっています。毎日がその繰り返しなのです。子どもたちは、私たちが守らないといけないんです」とおっしゃっています。
あつて当たり前命の思いがちですが、私たち、いろんな縁によって生かされているんですね。